

(2)造林の方法別の造林の計画

	造林の期間	造林樹種	樹種別の造林面積	樹種別の植栽本数
人工造林 (植栽・人工播種)			ha	本
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)				
5年後において的確な更新がなされない場合				

(3)伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

--

4. 備考

適合通知書等の希望の有無(有・無)

--

注意事項

- 1 伐採する森林の所在する市町村ごとに提出する事。
- 2 伐採する者が伐採後の造林に係る権限を有しない場合にあつては、伐採する者と当該権限を有する者が連名で提出する事。
- 3 氏名を自著する場合には、押印を省略することができる。
- 4 森林の所在場所ごとに記載する事。
- 5 面積は、少数第2位まで記載し、第3位を四捨五入する事。
- 6 樹種は、スギ、ヒノキ、マツ、(アカマツ及びクロマツをいう。)、カラマツ、エゾマツ、トドマツ、その他の針葉樹及びブナ、クヌギ、その他の広葉樹の別に区分して記載する事。
- 7 伐採方法欄には、皆伐、択伐、又は間伐の別を記載し、伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載する事。
- 8 伐採年齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(〇〇～〇〇)」のように記載する事。
- 9 伐採の期間が1年を超える場合においては、2の伐採の計画を年次別に記載する事。
- 10 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するように記載する事。
- 11 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において植栽によらなければ的確な更新が困難な森林として定められている伐採跡地の面積を下回らないよう記載する事。
- 12 天然更新補助作業の有無欄には、当該作業を行う場合には、地表処理、刈出し、植込みなどの作業の種類を記載する事。
- 13 造林樹種欄及び種別の造林面積欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載する事。
- 14 樹種別の植栽本数欄には、植栽する樹種ごとに複数の行に分けて記載する事。
- 15 5年後において的確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合(伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であつて、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。)における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の植栽本数を記載する事。
- 16 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供される事となる場合にのみ記載する事。